

品川区水とみどりの基本計画・行動計画

第1回改定検討委員会 議事概要

日時：令和2年9月2日 午後13時30分

場所：品川区役所 議会棟6階 第一委員会室

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員長挨拶
4. 議事
 - (1) 計画の改定について
 - (2) 水とみどりの状況
 - (3) 国・都の動向
 - (4) 区民意識調査について
 - (5) その他
5. 閉会

【議題(1)：計画の改定について】

・PDCA サイクルの中で、現行計画の施策の成果や効果などをまとめ、次回委員会で提示してほしい。(小野委員)

→次回委員会までにとりまとめ、資料として提示する。(事務局)

・品川区としては、みどりを増やすのか、減らさないよう守っていくのか、どのような立場でいるのか。(小野委員)

→全体量だけを求めるのではなく、暮らしの中で生きるみどりを評価するような計画としたいと考えている。(事務局)

・品川浦や京浜運河沿い、目黒川の河口部など、魚やカルガモなどの生き物がいる水辺を更に活用すべきである。また、遊歩道が一部低くなっている水門の内部護岸も、水と親しめるように生かすとよいのではないか。(伊東委員)

→そのような観点を踏まえ、品川「らしさ」を考慮した施策の検討を行う。(島田委員長)

・「暮らしの中でのみどり」をいかに育て、「さわれる水」をいかに増やせるかが重要である。

また、品川本来の景観や地形をいかした計画とすべきである。(近藤委員)

・品川区らしい景観をいかに増やすかが重要であり、緑被率とは違う目標をたてるべきである。(村上委員)

→他都市の参考となるような品川区独自の指標をたてられると良い。(島田委員長)

・品川の歴史や伝統を生かしたみどりを保全することが重要である。(伊東委員)

・水やみどりは、環境問題、水害、ヒートアイランド等の対策の観点からも整備すべきであ

る。(伊東委員)

→水やみどりの機能・役割については、専門的な調査を踏まえて提案すべきである。(村上委員)

・しながわ花海道では、花を育てるための水道設備が必要であるため、このような具体的な部分も考えてほしい。(永尾委員)

・湧水関係は、歴史とリンクさせることで品川らしきを出せるのではないか。また、行政と民間が一体となった組織をつくるなどして、みどりと水を連携させ、いかにネットワークを構築させるかが重要である。(高木委員)

・みどりについては、どこで・どういう理由で、みどりの増減があったのかを分析すべきである。また、「その地域らしいみどりや水」を発見し育てていくことが「品川らしき」に繋がるため、品川らしいみどり景観・水辺景観を見つけ、次回委員会で資料として提示してほしい。(村上委員)

【議題（２）：水とみどりの状況】

・緑被率の目標を達成できなかった原因は何か。(伊東委員)

→調査によると、民間の敷地などの樹木被覆地のみどりが大きく減っている。特に、荏原地区にあった屋敷林の喪失と、公園整備の結果、公園内のみどりが減少したことが一番の原因であると考えている。(事務局)

・運河や目黒川などの大きな水辺以外に、品川らしい水辺はあるか。湧き水などを探し、そこからせせらぎなどを作ることができれば、品川らしい小さな水辺となるのではないか。(近藤委員)

→運河や目黒川などの大きな水辺以外に、内陸の水辺も必要だと考えている。現在湧水調査を行っているため、その結果を踏まえて検討していきたい。(事務局)

【議題（３）：国・都の動向】

・みどりの基本計画では、生物多様性、グリーンインフラ、SDG s等の国の施策と合わせて考え、首都直下型地震や大型台風、コロナ等、直面している問題に対しても対応したものとすべきである。(島田委員)

【議題（４）：区民意識調査について】

・特に水辺の「量」や「質」についての設問は、言葉だけだとイメージが難しいため検討が必要ではないか。(高木委員)

→水辺については「質」ではなく「資質」としてはどうか。(高木委員)

→特に水辺の「量」「質」という言葉は再考する。(事務局)

・生活の中で水やみどりがいかに役立っているか、愛着を感じているか等、身の回りのみどりの位置づけを聞けると良い。(村上委員)

・地区やマンションの階数など、住んでいる場所によって、水やみどりの感じ方がどう違うのか、解析できると良い。(高木委員)

【議題(5):その他】